

TEAM MYODEN



市川市立妙典中学校 令和5年度生徒指導だより第1号 4月13日

教育目標：未来を拓く妙典中生徒<明るく・正しく・美しく>

目指す生徒：◎ふれあいを大切にする生徒 ◎進んで学ぶ生徒 ◎頑張りぬく生徒

◎妙典中の良いところは？



進級、入学おめでとうございます。新年度になり、気持ちを新たに頑張ろうと前向きな人が多いのではないのでしょうか。さて、在校生のみなさんは妙典中学校の良いところは？と聞かれたら何と答えますか？多くの方は「あいさつ」と答えるのではないのでしょうか？実際にみなさんが校内ですれ違ったときに目を見て大きな声であいさつをしてくれます。とても気持ちがよいものです。あいさつは妙典中の生徒が築いてきた伝統の一つだと思っています。この素晴らしい伝統を新入生、そしてさらに次の世代に受け継いでいってほしいです。また、「そうじ」の取り組みも素晴らしいです。掃除の終わりの時間ぎりぎりまで一生懸命校舎を磨く姿や終わっていない箇所の手伝いをしている姿が多くみられます。「そうじ」も妙典中の伝統の一つにしていけるとよいですね。2、3年生は新入生に妙典中生の「あいさつ」、そして「そうじ」を、実際に目の前で見せてあげてほしいと思います。そして大切な伝統として、次の代へつないでいってください。

◎凡事徹底

みなさんは「凡事徹底」という言葉を知っていますか？
凡事徹底とは「なんでもよいような当たり前のことを徹底的に行うこと。または、当たり前のことを極めて他人の追随を許さないこと」という意味だそうです。こんなエピソードがあります。

松下電器（現在のパナソニック）の創業者である松下 幸之助氏が当時、取引先の企業を訪問した際、売り上げや利益といった数字を見なくとも、その企業の経営がうまくいっているのかどうかを瞬時に見抜いたそうです。松下氏の評価基準はいたってシンプルで、一つは従業員の「挨拶」、二つは「整理整頓」、三つは「トイレの掃除」です。この三つを見れば大体その会社の様子はわかるということです。「この三つのことができている会社は間違いなく伸びる。逆に、これらができていない会社は、今、ある程度の業績であっても、必ず駄目になる。そして、このことは人にもあてはまる。当たり前のこと、簡単なことをしっかりやり続けている人は、間違いなく成長する。」というのです。

誰にでもできることを誰よりも一所懸命取り組み継続する。日々の積み重ねが大切なことがわかります。妙典中の伝統である「あいさつ」「そうじ」を通して、自分自身にも磨きをかけていけるとよいですね。



◎落とし物BOX



職員室前のロッカーに落とし物BOXを設置しています。落とし物か届いたらその日から1か月保管をして、持ち主が現れない場合は処分をします。みなさんの持ち物は、みなさんの保護者が一生懸命働いて得たお給料で買ってもらったのだと思います。身の回りの整理整頓をし、極力落とし物がないようにするとともに、万が一落としてしまった際には、職員室前にあるロッカーをのぞいてみてください。ロッカーにあった場合は、担任の先生や職員に声をかけてください。

◎悩みは相談をしよう



始業式でも話をしましたが、人は誰でも悩みを抱えることがあります。大切なのは自分の心のSOSにちゃんと気づいてあげることです。一人で解決できないこともあるかもしれませんが、まわりには必ず話を聞いてくれる人がいます。そんな時には、担任、学年職員、部活動顧問、学校職員、友達、保護者など誰でもよいので、話をしてみてください。先生たちはどんなことでも、みなさんの話をしっかりと聞きます。みなさんが毎日明るく、充実した学校生活を送れるよう、悩みがあったら相談してください。